

# 産業廃棄物実態調査【調査票その1】 (平成26年度実績)

製造業、農業、漁業、鉱業、  
電気・ガス・水道業、卸売・小  
売業、サービス業、学術・開  
発研究機関、その他

## (記入例)

### 《 記入上の注意等 》

1. 本調査は、平成26年度（26年4月1日から27年3月31日まで）の1年間に発生した廃棄物を対象とします。
2. 本調査は事業所単位で行いますので、調査票が送付された事業所に関してお答えください。  
調査票が送付された事業所以外に本社(本店)、支社(支店)、工場等が所在しても、それらについては調査の対象となりません。ただし、農業協同組合・漁業協同組合については、支所なども含めた全体での取扱量をお答えください。
3. 調査票への記入に際しては、別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考にしてください。
4. 回答いただきました内容につきましては、統計数値として処理いたしますので、個々の事業所名を公表したり、調査の目的以外に使用することはありません。

本調査で対象とする「産業廃棄物」は事業活動に伴って生じた廃棄物のうち法令で定められた20種類及び特別管理産業廃棄物を指します。  
(業者等に売却したものも対象となります。)

「産業廃棄物」の具体的な内容は、別紙「1. 産業廃棄物分類コード表」を参照してください。

なお、「産業廃棄物」が発生しない場合でも調査の対象となります。その場合は、本ページのみご記入の上、調査票を返送願います。

締め切りは、平成27年6月30日(火)です。

事業所の概要	事業所名	株式会社〇〇		事業内容	事業コード (別紙の事業コード表参照)
	所在地	〒〇〇〇-〇〇〇〇 富山県〇〇市△△町□□番地			5-14 分からない場合は以下に詳しい事業内容を記入してください
	記入者氏名	〇〇 △△	担当部課 総務部 総務課		電話番号 (〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇〇

事業の概要	従業者数	貴事業所の平成26年度の活動量 (該当するものの番号を○で囲んでください)		事業所の形態						
	貴事業所の平成27年3月31日における従業員数を記入してください。 従業員にはパート等の臨時従業員及び役員等を含みます。	① 製造業: 製造品出荷額(万円/年) ② 卸・小売業: 販売額(万円/年) ③ その他: 記入不要		貴事業所の形態に該当する番号を○で囲んでください。 ① 工場・作業所 (+事務所) ② 開発・研究所 (+事務所) ③ 事務所、オフィスのみ ④ その他⇒具体的に ( )						
	平成26年度	3	0	人	3	5	2	0	0	0

産業廃棄物の発生状況	平成26年度の1年間に貴事業所で産業廃棄物は発生しましたか。該当する番号を○で囲んでください。	【調査票その2】に産業廃棄物排出・処理状況等を記入願います。	【その2】へ (次ページ)
	① 産業廃棄物が発生した 『産業廃棄物』に指定されている品目を別紙「1. 産業廃棄物分類コード表」に示します。 なお、事務所から発生する紙ごみ、生ごみ等は「産業廃棄物」ではなく、事業系の「一般廃棄物」です。	調査はこれで終了です。	
	② 産業廃棄物は発生しなかった		

# 産業廃棄物実態調査票【調査票その2】の記入要領・記入例

## 調査対象期間

●本調査は、平成26年度（26年4月1日から27年3月31日まで）の1年間に発生した産業廃棄物を対象とします。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～③までご記入願います。

## 発生量について（③年間発生量）

●自社で「焼却」・「脱水」等の処理を行っている場合は、その処理を行う前の「名称」と「数量」をお答え下さい。

○自社で焼却している場合の発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Cを参考にしてください）

木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○自社で脱水(乾燥)している場合、発生した廃棄物とは脱水(乾燥)前のものです。

汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式等より試算願います。

$$\langle \text{式} \rangle : (\text{脱水} \langle \text{乾燥} \rangle \text{前の汚泥発生量}) = (\text{脱水} \langle \text{乾燥} \rangle \text{後の汚泥量}) \div (100\% - \text{脱水} \langle \text{乾燥} \rangle \text{後の含水率}\%) \times (100\% - \text{脱水} \langle \text{乾燥} \rangle \text{前の含水率}\%)$$

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。

○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。

○含油廃水を油水分離した場合 → 油水分離後の「廃油」と「汚泥（油でい）」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

●廃油（機械油など）について

○ドラム缶の本数で把握されている場合は、1本=180kg（200リットル）

○一斗缶の本数で把握されている場合は、1本=16.2kg（18リットル）として換算してください。

## 記入について

●同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①「廃棄物の名称」の欄から行を分けて記入してください。

●処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票を参考に記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

## 記入例

産業廃棄物となる紙くずは、特定の業種に限られます。  
※オフィスから排出されるコピー用紙などは、産業廃棄物に該当しません。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

該当する単位に、必ず〇をつけて下さい。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入して下さい。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入して下さい。

No.	産業廃棄物の名称	②分類コード	③年間発生量	単位	④中間処理方法				⑤中間処理後量	単位	⑥処理処分等の方法	⑦処理、処分又は再生利用先の名称	⑧地域コード	⑨中間処理方法			⑩中間処理後量	単位	⑪処理後の状況	⑫再(生)利用・埋立の場研	⑬再(生)利用の用途
					1次処理	2次処理	3次処理	1次処理						2次処理	3次処理						
記入例:A	紙くず	0700	600	kg					kg		4	○×商店	201					kg	1・2	201	7
記入例:B	金属くず	1200	100	kg					kg		3	(株)□□	015					kg	1・2	015	1
記入例:C	廃油	0310	960	kg					kg		5	(株)××商店	211	7		960	kg	1・2	211	3	
記入例:D	廃プラスチック	0600	750	kg					kg		5	(株)××	204	1	20	75	kg	1・2	204		
記入例:E	無機性汚泥	0220	25	kg	5	6			kg		1	自社	211				kg	1・2	211	1	
記入例:F	有害汚泥	7426	10	kg	5	6			kg		6	(株)△△	201				kg	1・2	201		
	無機性汚泥	0220	100	kg	2				kg		5	△△産業	208	13	21	20	1	kg	1・2	210	
	無機性汚泥	0220	100	kg	2			25	kg		6	(有)○○	201				kg	1・2	201		

**記入例:A**  
紙製造の工程で、紙くずが年間に600kg発生した。  
これは、すべて富山市にある○×商店に無償で譲渡し、紙原材料として富山市内で再資源化した。

**記入例:B**  
鉄板の加工の際に鉄板くずが年間150t発生した。  
このうち100tを新潟県にある㈱□□に売却した。  
残りの50tを高岡市にある㈱△△に売却した。  
2社とも鉄鋼材料として再利用した。

**記入例:C**  
月平均で一斗缶5本分の機械油が発生した。重量換算すると年間に972kgとなった(16.2kg×5本×12ヶ月:上記「発生量について」参照)。  
これらは、すべて射水市の処理業者××商店に処理を委託した。  
××商店では、当該機械油を油水分離し、油960kgと機械油汚泥12kgに分離している。分離後の油960kgは、燃料として利用し、機械油汚泥12kgは焼却処分した。燃え殻を処理業者の最終処分場に埋立処分している。

**記入例:D**  
プラスチック製品くずが年間750kg発生した。  
これらは、すべて魚津市の処理業者㈱××に処理を委託した。  
㈱××では、焼却処理し、焼却後の燃え殻約75kgは魚津市の最終処分場で埋立処分された。

**記入例:E**  
排水処理汚泥が発生し、自社の施設で脱水、機械乾燥を行い、脱水後の残さが10t(含水率85%)であった。脱水前の量は、含水率が97%であるため試算(上記「発生量について」参照)すると、50t程度となった。  
《計算式》 10t×(100-85)÷(100-97)=50t  
脱水後、電気炉にて、純金属1tを製造し、自社(射水市)で利用し、同時に発生するスラグ2tは富山市の㈱△△で直接埋立した。

**記入例:F**  
有害汚泥と排水処理汚泥が合計110t発生した。  
有害汚泥は年間10t発生し、それらはすべて砺波市の△△産業に処理を委託した。  
△△産業では、中和及び無害化処理した後、南砺市の管理型処分場で埋立処分されている。  
※⑨委託処理中間処理方法コード表の「Z:その他」の( )に「無害化処理」と記載してください。  
また、100tの排水処理汚泥は、すべて自社の施設で脱水し、脱水後の汚泥25tは富山市に管理型処分場を保有する㈱○○で埋立処分された。